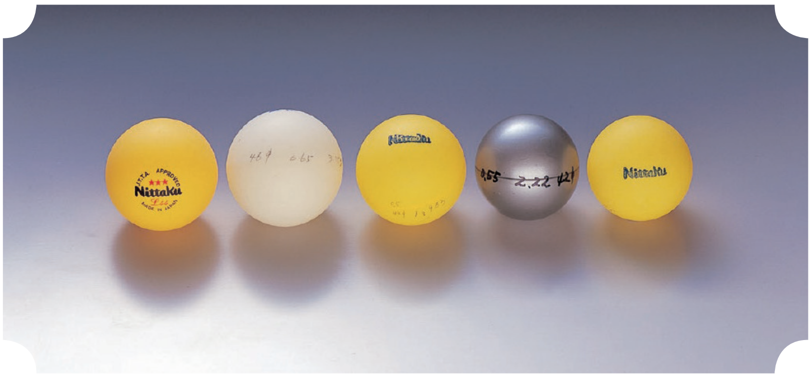
ニッタクとラージボールの歩み

ラージボールは昔からあった「卓球の種類」ではありません。
競技として産声を上げたのは、1988年（昭和63年）。日本卓球協会の故・荻村伊智朗氏が発案。
子どもからお年寄りまで気軽にラリーを楽しめる「ラージボール」という競技がスタートしました。



様々な色・サイズ・重量の試作品から、オレンジ色・44mm・2.2gが選ばれた

1988〜2013年

初代ラージボール公認球

2013〜

非セルロイド化に伴い、
世界初のプラスチック製公認球が
誕生

2021〜2026

世界初の抗ウイルス・
抗菌仕様公認球が誕生

ニッタクの挑戦 試行錯誤の末に開発

ラージボールの発案時、ボールの研究開発に携わったのが、ニッタクです。
誰でも簡単にラリーが続けられるよう、風船を打つ感覚を目標に開発に挑みました。
サイズは当時の硬式卓球が38mmだったこともあり、40、42、44、46、48、50mmの2mm間隔で、赤、黄、青、緑、オレンジ、ゴールド、シルバー色のセルロイドを製作。
それぞれのサイズとカラーとで重量別に2.0〜5.0g位の試作ボールを作り、研究、試行錯誤を繰り返し、苦難の末にラージボールができあがりました。

誰でも楽しめる ラージボールが誕生

硬式卓球とは違いボールのスピードを遅く、回転をかけにくくすることで、ゆっくりと打ち合うことができ、初めての方でもすぐにラリーを楽しむことができます。
上級者同士ではポイントを取るための緻密な組み立てが必要で、スピード重視の硬式卓球とは違う奥深さもあります。

全国各地で講習会を開催し 普及に貢献

3世代で楽しめるラージボールは、年々人気を高めています。ニッタクは、全国各地での講習会をはじめ、国内のみならず、海外でも大会を開催し、ラージボールの認知を広げる取り組みを行っています。
また、ラージボール製品開発のパイオニアとして、ラケットやラバーなど、ギアの開発にも注力し、改革してきました。
幅広い楽しみ方ができるラージボール。趣味として、チャンピオンを目指して、健康で明るい生涯スポーツとして。楽しみ方はあなた次第です。

ラージ沼から抜け出せません！

ラージボールは44mmなので「4」と「4」を合わせて“幸せ”な直径。この幸せな沼にハマって約2年が経ちます。
なんて心地のよい沼なのでしょう。そして、その沼はますます深くなっていく…。
ラージボールの魅力はなんといってもラリーが繋がること！ラリーが繋がれば人間関係も繋がります。
また、最近大会に参加し始めて感じるのは、試合会場の雰囲気がとても良いことですね。
硬式卓球ではついつい勝敗を気にしすぎてしまうのですが、ラージボールの会場は和やかで友好的な空気が流れているのが魅力的ですよね。気軽にラリーを楽しめるラージボールを、ぜひ体験してみませんか？

福澤 朗